

22. 里山の健康資源開発としての遊休農地を利用したグループ農業

多賀谷昭、深山智代、北山秋雄、那須裕、野坂俊弥

長野県看護大学

【要旨】

農地は生産の場としてだけでなく生活環境として様々な役割を果たしているが、近年、過疎化や高齢化、採算割れ等で遊休化が進み、里山の環境の荒廃が危惧されている。その解決策の一つとしてのグループ農業の可能性を探るため、長野県の中山間地域で行われている女性高齢者を主体としたグループ農業の実態調査を行った。グループ農業の影響は予想以上に広範な領域と多くの人々に及んでおり、農地を保全して生活環境を守るだけでなく、その活動に参加する人々の健康に好ましい影響を与えることが期待できることが明らかになった。

【キーワード】

里山、健康資源開発、遊休農地、グループ農業、女性高齢者

【目的】

農地は作物を供給するだけでなく、里山の主要な環境要素として、そこで暮らす人々の生活に様々な重要な役割を果たしているが、近年、過疎化や高齢化、農業の採算割れ等により遊休化し、荒廃が進行している。農地は一種の生き物であって、人間の営みを止める遊休化は農地の死を意味し、再生には多大な労力、時間、費用を要する。グループ農業には、遊休農地を生きた農地として維持できることと、グループ活動による参加者の健康の増進という二つの効用が期待できる。本研究では、グループ農業の実態を調査することにより、中山間地域の里山を保全し健康資源として利用するための諸条件を明らかにすることを目的とした。

【方法】

長野県下伊那郡大鹿村上蔵地区の楽姓

クラブを対象とし、その活動と背景を、参加観察およびインタビューにより調査した。主な調査は2007年4月から11月に行った。

【結果】

調査の結果、次のようなことが明らかになった。

- 1) 活動は女性高齢者が主であるが、耕作等の力仕事には男性も協力していた。
- 2) 利用する農地は地区の象徴である福德寺と大イチョウのそばにあり、グループ農業は村落を挙げての活動という性格を帯びていた。
- 3) 村特産の作物とともに、観光客の目を楽しませる花を植えていた。
- 4) 年長者が多くの知識をもち、先頭に立って作業を行なう傾向が見られた。

- 5) 植え付けや除草に村内の小学生が授業の一環として参加していた。
- 6) グループ主催の収穫祭は、世代間の交流や伝統の継承の場として機能していた。
- 7) 遊休農地の増加に伴い、雑草や害虫、哺乳類による被害が増えたと認識されていた。
- 8) 農地の荒廃は、村の治安や景観だけでなく人々の気持ちに影響していた。

【考察】

以上の結果から、楽姓クラブによるグループ農業の活動は、農作業だけでなく多様な活動を含んでいること、また、その背景や影響はコミュニティと多面的に関連していることが明らかになった。したがって、里山の環境を保全し健康資源として利用するには、そのような保全・利用における人間の活動を、自然環境およびコミュニティとの関連において多角的に検討する必要がある。

同じ対象地域で伝統的ソーシャルサポー

トシステムの調査を行った多賀谷と野口¹⁾は、昭和初期の対象地域では人々の生業活動がきわめて多様性に富み、しかもその多様な活動の大部分に各世帯・各個人がかかわるといふ、松山²⁾が提案した山村のプロトタイプに近い特徴を有していたことを明らかにしている。グループ農業に非常に多くの人々が多面的に関わっていることは、生業活動やソーシャルサポートシステムに関する山村のコミュニティに特有の伝統も影響している可能性が示唆される。

今後、グループ農業をモデルケースとして調査を進め、里山の環境を保全し健康資源として利用するための諸条件を、より具体的に明らかにして行く予定である。

【文献】

- 1) 多賀谷昭・野口眞弓：昭和初期の長野県南部山村における生活と育児：伝統的ソーシャルサポートシステムとその現代的意義. 長野県看護大学紀要, 4:19-29, 2002.
- 2) 松山利夫：山村の文化地理学的研究. 古今書院, 東京, 1986.